

令和4年度 自己評価

認定こども園新琴似幼稚園

教育目標：園の理念（発達保障と全人格教育）を守りながら、新しいツールを活用し魅力あふれる子ども園づくり～ウイズ・アフターコロナ時代を生きる

教育研究課題：主題「新しい時代をのびやかに生きる～社会に開かれた質の高い幼児教育を～」

○コロナ禍の教育・保育

札幌市の気候が変わってきており、暑い夏、寒い冬の中での換気は常時できないところがある。しかし、保育中の密を避けることは難しく、園外保育を増やしてきた。また、気持ちを開放する保育を心掛けてきた。

家庭との連携は、見に来ていただく機会が減っている・保護者同士のコミュニケーションが不足しているとの声があがっていることから、個人面談、1日1クラス開催の参観日、ホールでの参観レク、お迎え時、バスなどで積極的に発信していたことで、少しでも幼稚園を信頼してお子様を家庭から送り出していただいていると感じる。PTA はほとんど活動がないものの、お父さんによる保護者ボランティアを一部復活させ、保育理解をすすめていただく機会になっていると感じる。昨年要望が多かった茶話会については、マスク着用で短い時間でも懇親会を行うことができた。顔をお互いに知り声を掛け合うことで、保護者の表情が少し和らいだように感じる。保育は幼稚園、保護者、地域が寄り添って子育てしていくものであるが、保護者同士のコミュニケーションの場としても役割を果たしていきたいと思う。

○保育の質を高める園づくり

加盟している研究機構の研修、園内研修、北私幼などの研修は zoom や配信などで受講できるようになっており、保育の質向上につながっている。リモート研修のため、全職員が園内研修を共有できたことが良かった。全職員が子どもたちの理解を深められるようツールを工夫して使っていきたい。幼児教育センターの特別な支援を必要とする子どもについての研修会も園を会場とし、保育を見直す良い機会となった。子ども一人一人を理解することでその子の得意・苦手なことを伸ばすサポートをアップデートしていく。

行事については、密を避けることで見直しやり方を変えたことが、一人一人に配慮できたものもあり、今後も続けていきたいと感じるものもある。引き続き取り組みを見直しながら、より良いカリキュラムについて考えていきたい。

自己評価としては、B とする。